

大海小学校
学校だより

おおみ

9月

第5号

平成26年9月1日(月)発行

7月26日 学童相撲大会

「実りある二学期に」

校長 油井 宏樹

夏休みも終わりました。全校児童105名が、大きな事件・事故に巻き込まれることもなく、無事に今日を迎えられることを大変嬉しく思います。長い休みの間、子どもたちは様々な経験をし、見聞も広げたことでしょう。その経験が2学期からの生活に役立ち自信となって、一人ひとりの表情や行動に表れることを期待します。

さて、今夏の高校野球を見て北信越勢の強さを感じた方も多かったと思います。石川、福井、富山、新潟、長野県の学校が全て初戦を突破し、目覚ましい活躍をしました。一昔前は、北陸は雪のハンデがあるため屋外スポーツは全国レベルまで育たないといわれていました。それがどうでしょう。高校野球だけでなく、全国高校サッカー選手権でも決勝を石川と富山で戦いました。指導や練習の工夫次第で立派に選手を育てることができるのですね。お互いに競い合う中で、人間は育ちます。

スポーツの世界に限らず大海小学校で学ぶ子どもたちが大人になる頃は、激しい変化と国際化が今以上に進み、国境を越えて人々と学び合い競い合う世界になることでしょう。そのためにも本校では社会の変化や時代の進展を見据えて子どもの心を磨き、国際社会で通用する確かな学力と良識を備えた児童の育成を目指しています。

二学期は運動会をはじめ大海っ子フェスティバル、歯と口の健康づくりの研究発表会など学校全体で取り組む行事も多く、また、じっくりと学習に向かえる季節です。1学期で身に付けた力を基礎にして、2学期には大きな花を咲かせてほしいと思っています。

最後になりますが、教育者として大変有名な東井義男先生の詩を掲載します。児童と正対し、「心のスイッチ」が入るよう職員一丸で支援していきます。

「心のスイッチ」

東井 義雄 作

人間の目は不思議な目

見ようという心がなかったら 見ていても見えない

人間の耳は不思議な耳

聞こうという心がなかったら 聞いていても聞こえない

同じように先生の話聞いていても ちっとも聞こえない人がある

ほんとうにそうだと胸の底まで聞く人もある

頭もそうだ

はじめからよい頭 悪い頭の区別があるのではないようだ

「よし、やるぞ」と心のスイッチがはいると

頭もすばらしいはたらきをいはじめる

心のスイッチが人間をつまらなくもし すばらしくもしていく

電灯のスイッチが家の中を明るくもし、暗くもするように